

UTCP ワークショップ

乳房はだれのものか

木村朗子 × 田崎英明 × 生方智子

University
of Tokyo
Center
for
Philosophy



2009年3月17日(火)
17:00~19:00

東京大学駒場キャンパス
101号館2階研修室

木村朗子 (津田塾大学)
専門は日本古典文学、ジェンダー/セクシュアリティ論。著書に『恋する物語のホモセクシュアリティ—宮廷社会と権力』(青土社)、『乳房はだれのものか—日本中世物語にみる性と権力』(新曜社)。

生方智子 (立正大学)
専門は近現代文学、ジェンダー/セクシュアリティ論、身体論。共著に、飯田祐子ほか編『少女少年のポリティックス』(青弓社)

田崎英明 (立教大学)
専門は身体社会論、身体政治論、ジェンダー/セクシュアリティ理論。著書に『ジェンダー/セクシュアリティ』(岩波書店)、『無能な者たちの共同体』(未来社)。

乳房はだれのものか。乳房は母のものか、女のものか。

はたまた、他のだれかのものであるのか。

乳房の帰属を問うことは、私たちの身体を絡めとる性をめぐる認識を問題化することでもある。

私たちが生きることにより性が深く関わることを、

生を構成する権力の制度の問題として

捉えられないだろうか。本ワークショップは、

乳房に投げかけられる問いから、

生きることと権力の関わりを議論する場となるだろう。

司会：内藤まりこ (UTCP)

使用言語：日本語 入場無料 事前登録不要

主催：東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター (UTCP)」

共催：叙述態研究会